

平成22年度 第1回 物理学教育FD／ICT活用研究委員会 議事概要

I. 日時 : 平成22年7月10日(土) 午後1時00分から午後3時50分まで

II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者: 藤原雅美委員長、川畑州一副委員長、太田雅久委員、藤原勉委員、
寺田貢委員、満田節生委員、徐丙鉄委員、松浦執委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、渡邊職員

IV. 議事概要

1. 学士力の実現に求められる ICT 活用の検討について

委員全員が、学士力における3つの到達目標を実現するためのICT活用案もしくは具体例について、各自の提案内容(7月3日に宿題として提出済:配布資料③.1~7)を説明した。主な報告および提案の内容は以下の通り。

- (1) 授業の各場面でコンピュータによる図を用いるなどして、学生に分かりやすく講義を行っている。
- (2) 視聴覚教材(リメディアルフィジックス)による授業を開講しているが学生には好評である。
- (3) 学生に電子コメントを課して、学生間に意見を共有させている。
- (4) 学生間でのPeer Instructionを取り入れた授業が効果的である。
などである。

これらの説明を踏まえ、学士力の実現に求められるICT活用の具体案について討議したが、具体的な提案として纏めるには至らなかった。また、議論の中で、物理学を講義するのに半期15コマは少ないのではとの意見が出され、この点も話題となった。

そこで、次回(9月11日(土):予定)までに、各自、ICTを活用した授業改善モデルについて考えてくることとなった。特に、半期15コマの授業回数を意識した新しい講義形式のモデルと学生実験におけるICT活用のモデルについては担当を決めて提案するよう委員長から要請があった。

2. 分野別情報教育の整理

「平成22年度物理学FD調査」(配布資料⑤)におけるコメントを参考にして「物理学教育における情報教育(中間まとめ)」(配布資料④)の文案を一部、下記のように修正した。

【到達目標1】

物理学の学びを深めるために、ICTを活用することができる。

【到達度】

②物理学の学習に際し、Web上の情報源を情報倫理に則して適正に活用することができる。

【到達目標2】

自然現象を科学的に考察するために、ICTを活用して、実験データを処理し分析できる。

【到達度】

- ①コンピュータを活用して、物理現象に関するデータ収集と処理を行うことができる。
- ②アプリケーションソフトを用いて解析し、その結果を可視化できる。

【到達目標3】

現象に対する物理学の観点からの解釈をするために、その情報の質を評価し、適用範囲を見極めて、伝えることができる。

【到達度確認の測定手段】

- ①~③は、レポート、プレゼンテーション、グループディスカッションなどで確認する。

3. 今後の検討のスケジュール

事務局より、今年度は今回を含め4回の会議を予定していることと各回の検討内容、および成果目標が委員会活動計画（案）（配布資料①）により示された。

5. 次回までの宿題

各自、授業改善モデルについて考えてくる。

授業回数を意識した授業モデル、実験でのICT活用については担当を決めて提案する。

V. 次回の開催日程

日時：平成22年9月11日（土） 午前10時30から

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

以上。